

(臨床研究に関する公開情報)

岡山医療センターと岡山市立金川病院では、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究にカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名]

当院の脆弱性骨盤骨折患者における骨粗鬆症及びリハビリテーションについての検討

[研究責任者]

リハビリテーション科 理学療法士 安藤 可織

[研究の背景]

骨粗鬆症とは、骨強度の低下を特徴とし、骨折のリスクが増大しやすくなる骨格疾患であります。わが国の骨粗鬆症患者は約 1280 万人(2015 年骨粗鬆症ガイドライン)、年間発生率は約 100 万人とされ、要介護や寝たきりの原因となっています。骨折を減少させる意味でも骨粗鬆症への予防介入は重要であります。骨粗鬆症の治療率は 20%と非常に少ないのが現状であります。

近年、高齢人口の増加とともに骨粗鬆症を基盤とした脆弱性骨盤骨折が増加しています。脆弱性骨盤骨折を発症すると、歩行能力、日常生活動作能力が低下する恐れがあるため、治療開始早期よりリハビリテーションを実施します。

当院のリハビリテーションの流れは、医師の指示に従いながら、歩行練習、下肢筋力トレーニング、日常生活動作練習を中心に行います。

[研究の目的]

脆弱性骨盤骨折の骨粗鬆症及びリハビリテーションについての報告は少ないのが現状です。脆弱性骨盤骨折の機能予後を明らかにする必要があります。このことが明らかとなれば、骨粗鬆症の治療及びリハビリテーションのプログラムの立案において大きく役立つこととなります。本金庄研究は、治療及びリハビリテーションを施行した脆弱性骨盤骨折患者さんに対して観察研究を行い、機能的回復を明らかにすることを目的としています。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

脆弱性骨盤骨折の患者さんで、西暦 2018 年 1 月から当院臨床研究審査委員会承認日までにリハビリテーションを受けた方

●研究期間

当院の臨床研究審査委員会承認後、研究実施許可日から西暦 2021 年 6 月 30 日

●利用するカルテ情報

カルテ情報：

- 患者さんの基本的な情報  
(性別、身長、体重、既往歴など)
- 臨床情報  
(診断確定日、診断名、骨折部位、治療方法など)

- 理学療法評価  
(歩行能力など)

●情報の管理

情報は、当院のみで利用します。

[研究組織]

この研究は、当院のみで実施されます。

[個人情報の取扱い]

検体や情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。検体や情報は、当院の研究責任者リハビリテーション科 理学療法士 安藤 可織が責任をもって適切に管理いたします。この調査へのご自分の診療記録の使用をお断りになっても、不利益を受けることはありません。その場合は担当者にお申し出ください。

[問い合わせ先]

【研究責任者】

リハビリテーション科 理学療法士 安藤 可織

【研究分担者】

リハビリテーション科 理学療法士 代入 望里

リハビリテーション科 理学療法士 羽田 楓

リハビリテーション科 理学療法士 勝部 翔

リハビリテーション科 理学療法士 勝谷 友裕

リハビリテーション科 理学療法士 井上 真理香

リハビリテーション科 理学療法士 宮下 広大

リハビリテーション科 理学療法士 中野 綾乃

リハビリテーション科 理学療法士 中路 哲司

リハビリテーション科 理学療法士 竹原 典子

リハビリテーション科 理学療法士主任 安川 達哉

リハビリテーション科 副理学療法士長 桑本 美由紀

リハビリテーション科 理学療法士長 廣川 晴美

リハビリテーション科 医長 西崎 真里

リハビリテーション科・整形外科 医長 塩田 直史

国立病院機構岡山医療センター

〒701-1192 岡山市北区田益 1711-1

電話：086-294-9911 FAX：086-294-9255